

## 令和7年度 生きもの調査指導者養成全国研修会（in 栃木）の開催報告

令和7年9月17日（水）、18日（木）、栃木県宇都宮市において、令和7年度生きもの調査指導者養成全国研修会（in 栃木）を開催しました。

本研修は、座学と屋外実習を通じて生きもの調査のサポートを行うことができる人材の育成を目的として実施しているものであり、今回は、グラウンドワーク西鬼怒が活動拠点としている宇都宮市白沢町の白沢公園を会場とし、市町担当者、県土連、多面的機能支払の活動組織の方など総勢18名が参加されました。

1日目は、センター職員から生きもの調査の目的と意義、安全管理等を説明した後、（株）地球工作所の斉藤代表から生きもの調査の方法と同定・識別について講義をいただき、その後、グラウンドワーク西鬼怒の水谷理事長から「グラウンドワーク西鬼怒の歴史と現在位置」と題して講義していただきました。質疑応答では、ジャンボタニシやアメリカザリガニなど外来種の対策について質問が出され、講師から初期段階で手を打つことが重要であり、そのためにも生きものに関心を持ってもらう環境づくりが必要ではないかと説明がありました。

2日目は、白沢公園内において講師から定置網やカゴ網、投げ網の使い方について説明を受けた後、公園内を流れる九郷半川や小水路で研修生自身がタモ網を用いて生きものを採捕したほか、前日に設置した定置網とカゴ網を講師が回収し、すべての生きものを分類して講師から生態や識別方法の解説をしていただきました。

受講生からは「子供たちへの指導の仕方が理解できて良かった、いちばん気になっていた写真の撮り方が理解できて良かった、私たち、大人も心から楽しませていただきました」などの感想が寄せられました。

今回参加していただいた皆様の活動を通して、各地で生きもの調査の輪がさらに広がることを期待しています。



撮影場所：栃木県宇都宮市

撮影日：令和7年9月18日



講義（斉藤代表）



講義風景



講義（水谷理事長）



漁具の使い方の講習



研修生の採捕実習



定置網の回収



生きものの同定



採捕した魚類